事例No.	1962
公表年度	R4
団体の属性	中核市
団体名	長野県長野市

事例区分	第三セクター

タグ	・観光 ・EBPM ・ICT

事例種類	DXに関する取組

事例内容・タイトル

持続可能な観光地を目指したDX の推進

出典

第三セクター等に関する参考事例集

長野県長野市	（公財）ながの観光コンベンションビューロー

持続可能な観光地を目指したDXの推進

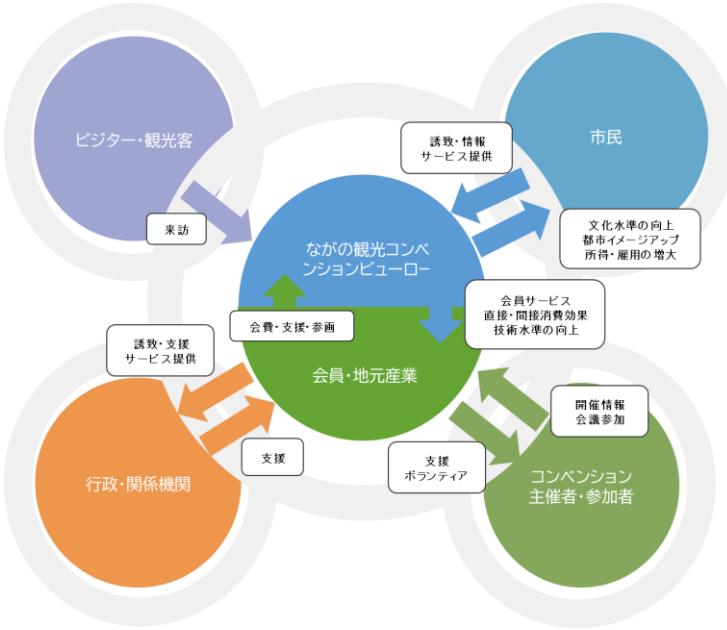
1.　法人概要（事業内容・経営状況等）

＜事業内容＞

○ 当法人は、長野市の産業、自然、文化などの資源及び長野冬季オリンピックの有形無形の財産を活用し、コンベンションの企画、誘致及び支援並びに観光の振興を図り、長野市の産業経済の活性化及び文化の向上並びに国際相互理解の増進に寄与することを目的として昭和62年6月に設立された。

○ 国内外からコンベンション・各種スポーツ大会等を誘致し、開催を支援することにより、市内宿泊者数の増加に繋げ、長野市により大きな経済波及効果を生みだすことに貢献している。

○ 長野市の魅力や旬な観光情報を発信するとともに、様々な観光プロモーションを通じて、市のイメージアップと来訪者数の増加を図ることにより地域経済の発展に寄与している。



当法人と地域との関係図

＜経営・出資状況等＞　（単位：千円）

経常収益	365,762	長野市出資額	52,000
経常損益	2,543	長野市出資割合(%)	50.5
資産	188,003	その他地方団体出資額	―
純資産	122,041	その他地方団体出資割合(%)	―
自己資本比率(%)	64.9	役職員数(人)	9

※経営・出資状況は、令和3年度決算数値

＜団体データ＞

人口（人）	371,651
標準財政規模（百万円）	92,384
財政力指数	0.72

※人口は、住民基本台帳に基づく人口（令和4年1月1日時点）
※標準財政規模及び財政力指数は、令和3年度決算の数値



観光PRイベント出展

2. 本事例の概要

○ 当法人では、「持続可能な観光地経営」の実現を目指し、令和3年3月に外部アドバイザーを含む観光DX推進プロジェクト（下表参照）を立ち上げ、観光関連データ及びデジタル技術の活用による新たな観光サービスの創出やデジタルプロモーションの推進に向けた企画検討並びに事業に着手した。

○ 令和4年4月から6月にかけ、長野市を代表する観光地である善光寺において、七年に一度の盛儀である「善光寺前立本尊御開帳」が開催され、大勢の観光客が来訪されることに伴い、デジタル技術を活用した観光プロモーションを実施した。

○ 御開帳開催期間中は、イベントに合わせたデジタルアンケートによる観光データ収集やデジタルイラストマップの導入による利用者の移動データ分析をはじめ、SDGs達成に向けた取組として360度カメラ映像によるバリアフリー情報を発信した。

＜観光DX推進プロジェクト概要＞

目的	構成員	取組内容
長野市の観光ブランド価値の創出による観光客の増加及び経済波及効果の最大化を図り、「持続可能な観光地経営」の実現を目指すこと。	• 事務局：当法人役職員 • アドバイザー：観光事業者 • オブザーバー：長野市観光振興課職員	• インターネット、SNSを活用した情報発信 • 観光客のデータ収集⇒分析⇒活用 • デジタルコンテンツの制作 • 民間事業者と連携した新規観光コンテンツの開発

3. 取組の背景、理由、着手のきっかけ

○ 長野市では、令和4年度から令和8年度にかけての5か年計画である長野市観光振興計画（https://www.city.nagano.nagano.jp/site/sougoukeikaku/149419.html）を策定している。本計画の重点施策の一つとして「快適で安全、スマートな観光を実現する基盤の整備」を掲げており、移動や買い物等にDXを取り入れることで快適に滞在することができる環境の整備を進めている。

○ また、本計画内における持続可能性を意識した観光振興の基本方針として、「AIやビッグデータなどを活用して、マーケティングデータを収集し、「ながのファン」づくりに活かすとともに、ニーズに即した顧客目線での快適で魅力的な観光サービスの提供」を行うことを掲げている。

○ 上記のとおり、長野市が持続可能な観光都市の実現に向けてDX化を推進する中で、市の外郭団体である当法人が中心となり、観光事業者もメンバーに加え「観光DX推進プロジェクト」を立ち上げ、官民一体となった取組を進めることとした。

4. 取組の具体的内容

(1) 取組方針とその決定過程

○ 長野市の観光ブランド価値の創出による観光客の増加及び経済波及効果の最大化を図り、「持続可能な観光地経営」の実現を目指すことを目的として、観光DX推進プロジェクトを立ち上げることとした。

○ 本プロジェクトにおける長期的な取組としては、持続可能な観光地づくりに向け、多様化する観光客のニーズを的確に捉え、より効果的なプロモーションを地域全体で展開する必要があることから、来訪者や関係団体等から観光データを収集し、様々な角度から分析した結果を関係団体や観光事業者と共有することとした。

○ 一方、短期的な取組としては、観光事業者による商品造成を支援するほか、デジタル化を推進し、長野市の魅力を積極的にPRすることにより、「ながのファン」を増やし、リピーターの獲得を目指すこととした。

(2) 取組の具体的な進め方

○ プロジェクトチーム会議では、事業ごとの進捗状況や課題等を確認し、今後の方向性を検討の上、次のような取組を行っている。

- 長期的な取組としては、効果的な観光戦略を立てるには、観光客の趣味嗜好や行動データを蓄積しておく必要があるため、イベント時などにおいて、居住地や交通手段、興味のある観光コンテンツ等についてのアンケートを実施し、データを収集している。
- 短期的な取組としては、多くの観光客が来訪する善光寺御開帳期間中には、「デジタルマップ」を活用し、利用者の移動データを分析することで、通行量は少ないが魅力的なコンテンツが充実しているエリアへ誘導するなど、戦略的な活用に努めている。

○ アンケートの実施やデジタルマップの導入には、(株)JTBと連携し、約30,000千円掛けて取り組むこととした。なお、財源については、長野市観光振興計画に基づく事業実施に係る補助金を活用し、自己資金は全体の5%程度に抑え、事業を開始することができている。

イベント別アンケート回答数

イベント	件数
長野マラソン	552件
善光寺御開帳	6,515件
アウトドアフェス	198件
計	7,265件



アンケート参加による抽選会



イベントチラシ

5. 取組の効果

○ 来訪者の居住地域や趣味嗜好に関するデータを取得したことで、自家用車での来訪が多い地域に向けては長野市内の駐車場案内を、JRを利用しての来訪が多い地域には市内の路線バス交通IC情報をメールマガジンで発信するなど、今後の観光戦略において、データ分析結果を活用し、観光客にとって必要な案内（情報）を提供することが可能となった。

○ デジタルイラストマップ（https://www.nagano-cvb.or.jp/modules/feature/digitalmap）の活用により、魅力的ではあるが観光客の少ないエリアが存在する事が分かり、今後、当該エリアに誘導するための情報発信などに活かすことのできるデータを収集することができた（実際のデジタルマップは右図）。

○ デジタル技術により、来訪者のまち歩きにおける動向（動線）や観光客がより興味・関心を寄せる史跡等の情報を把握することができた。今後の出店計画において、人通りの多い動線をターゲットとする際の参考データとして活用することが可能となった。



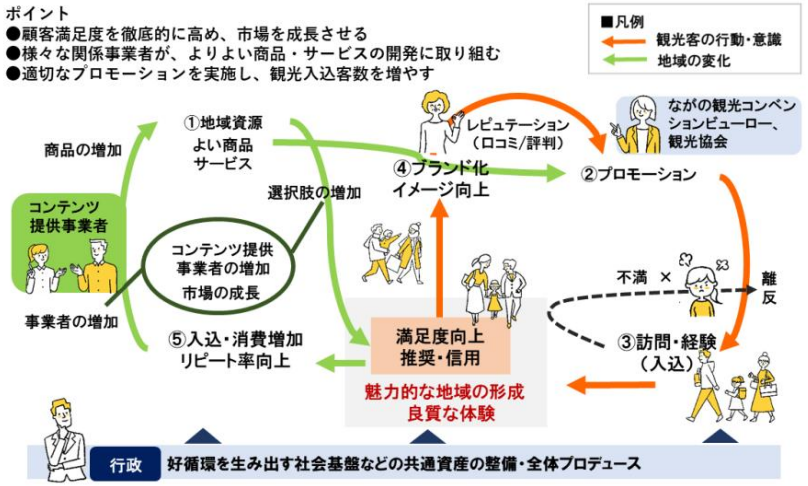
6. 今後の課題（今後の方針、残された課題等）

○ 人口減少が進み、全国で観光客の獲得競争が激しくなる中、リピーターを獲得し、持続可能な観光都市となるため今後もデータ収集と分析により、来訪者と直接つながる観光コンテンツを充実させていく。

○ 蓄積したデータや分析結果を地域の観光事業者と共有し、観光誘客や収益拡大に繋げ持続可能な体制を構築する。

○ 観光事業者から求められるデータを整備することにより、マネタイズ（サービスからの収益化）を図り、ランニングコストの一助として、事業継続を図る。

○ より多くの地域の観光事業者と連携するため、当法人の賛助会員サービスを拡充し、メリットを可視化することにより新規入会者の増加を図る。



成長し続ける観光産業の好循環モデル

＜参考＞地方公共団体の問合せ先　担当課：長野市観光振興課　連絡先（電話番号）：026-224-8316